

韓国の大学修能試験における 記述式問題導入の議論

2021年3月5日

第1回挑戦科研・研究会

田中光晴

文部科学省／国立教育政策研究所フェロー

報告内容

1. はじめに
2. 修学能力試験
3. 記述式問題を巡る議論
4. 今後の調査にむけて

本報告は所属する組織を代表するものではなくすべて個人的見解に基づくものです。

1. はじめに

本科研での調査について

- 文科省(2020)『諸外国の教育統計』2019年度版

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074_00006.htm

- 韓国国政ブリーフィングサイト

<https://www.korea.kr/special/policyCurationView.do?newsId=148855401>

- 教育部報道資料(プレスリリース)

1. はじめに

○「未来社会」

「科学技術の発達、低出産と高齢化、環境とエネルギー問題」などにより到来する「人工知能(AI)、ビッグデータ、IoTなどの最新技術に代表される第4次産業革命による知能情報社会」で、その構成員には新たな観点と能力が要求される。

○革新的包容国家 文在寅政権

「国民が誰でも性別、地域、階層、年齢に関係なく、差別や排除を受けない人間らしい営みが保障され、共によりよく生きられるように国が国民の全ライフサイクルにわたり生活の責任を担い、公正な機会と正しい結果が保障されるようにし、これを裏付けるために革新する国」

→進歩系といわれる由縁

○「未来教育」

教育部(日本の文部科学省に相当): 学校教育の改革の方向性として、個別最適化された教育、討論・活動中心の授業、融・複合的な学習内容と教育課程、プロセス中心評価、民主市民教育を提示

1. はじめに

○ 大学入試改革

- ・第4次産業革命により到来する社会において必要な創造的思考力、問題解決力、表現力などを評価するために、中長期的に大学入学試験において、多肢選択型問題と記述・論述型問題をバランスよく活用することが提起
- ・記述・論述型のみならず、「未来力量」を妥当に評価できる新たな大学入試の在り方を検討していくことを表明

○ 本科研での調査

- ・韓国の教育改革において、「未来型」入試としてどのようなものが想定されているのか
- ・特に、多面的・総合的な評価を拡大してきた一方で、公正・公平が強く意識される韓国の入試では、再び修学能力試験への「回帰」とも言える状況が生じている点と修学能力試験への記述式問題の導入是非が問題となっていることに注目し、改めて韓国の修学能力試験の現状と成果及び課題について調査する

(参考) 韓国教育基礎情報－教育統計 高等

	日本	韓国	日本	韓国
	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度
高等 教育	大学・短期大学	大学・教育大学・専門大学	大学・大学院・短期大学	大学・教育大学・大学院・専門大学
	82.4 %	84.0 %	74.8 %	79.9 %
	国公： 196 校	国公： 54 校	国公： 751.0 千人	国公： 607.9 千人
	私： 916 校	私： 284 校	私： 2,225.8 千人	私： 2,419.4 千人
	計： 1,112 校	計： 338 校	計： 2,976.8 千人	計： 3,027.3 千人
	大学	大学・教育大学	大学・大学院	大学・教育大学・大学院
	77.2 %	77.6 %	74.0 %	74.9 %
	国公： 179 校	国公： 45 校	国公： 745.3 千人	国公： 594.8 千人
	私： 607 校	私： 156 校	私： 2,118.5 千人	私： 1,773.2 千人
	計： 786 校	計： 201 校	計： 2,863.8 千人	計： 2,368.1 千人
短期大学	専門大学	短期大学	専門大学	
94.8 %	93.4 %	94.9 %	98.0 %	
国公： 17 校	国公： 9 校	国公： 5.7 千人	国公： 13.0 千人	
私： 309 校	私： 128 校	私： 107.3 千人	私： 646.2 千人	
計： 326 校	計： 137 校	計： 113.0 千人	計： 659.2 千人	

(出典) 文部科学省『諸外国の教育統計令和2年版』

2. 修学能力試験

韓国における修学能力試験について概観する。経緯のリソースは以下の2つ。

- 教育部ウェブサイト <https://www.moe.go.kr/main.do>
- 教育課程評価院ウェブサイト <https://www.kice.re.kr/main.do?s=kice>

2. 修学能力試験（1）性格

○ 大学入試制度

2020年現在、韓国の大学入試制度は、国による共通試験（大学修学能力試験）の成績や高校での学習成績や教科外活動について記した学校生活記録簿（内申書）、個別大学における論述や面接（各科目の学力を測る試験は禁止）の結果によって選抜

○ 導入

1994年度から現在まで行われている、教育部が主管する大学入学者選抜共通試験導入当初：「大学修学に必要な学業適性を測定するために統合教科的に高等学校の教育課程の水準と内容に合わせ高次元的な思考力を測定する発展した学力考查」と定義（ナム・ミョンホ他、2015:32）

2. 修学能力試験（1）性格

表1：大学入学者選抜（定員内）の区分と選抜資料

区分	選抜類型	主な選抜資料
随時 募集 ※表注	学校生活記録簿重視	学校生活記録簿・教科（教科の成績）
		学校生活記録簿・総合（教科外の成績や自己紹介を含む）
	論述重視	論述，面接等
	実技重視	実技，面接等
定時 募集	修学能力試験重視	修学能力試験の成績
	実技重視	実技，面接等

表注：随時募集の各選抜類型において、最低学力の保障のために、修学能力試験の成績を最低基準として用いる場合もある。この場合、随時募集の最終合格発表は修学能力試験後になる。

2. 修学能力試験（1）性格

表2：4年制大学入学者選抜類型別募集定員及び比率（2020年度入学者）

（単位：人）

類型	随時						定時					総計
	教科	総合	論述	実技	その他	合計	修能重視	実技	教科/総合	その他	合計	
定員	147,345	73,408	12,146	19,377	16,500	68,776	69,291	8,968	377	454	76,609	318,565
比率	42.4%	21.1%	3.5%	5.6%	4.8%	77.3%	19.9%	2.6%	0.1%	0.1%	22.7%	100%

表注：類型のうち、「教科」は、学校生活記録簿のうち教科成績を重視するもの、「総合」は、教科外の活動も含めるもの、その他には、定員外特別入試や在外国民や外国籍学生などが含まれる。

（出典）韓国大学教育協議会報道資料「2020学年度大学入学選考施行計画」2018年5月1日。

入試の多様化が進む近年は、個別大学では、書類選考と面接だけでの入試など、修能試験の結果を参考としない選抜も増えているが、修学能力試験は、設置主体を問わずほとんどの大学がその結果を入学者の選抜資料の1つとして活用している。

2. 修学能力試験（2）試験

○ 科目(2019年現在)

・国語、数学、英語、韓国史、探求(社会／科学／職業)、第2外国語／漢文の6領域
韓国史は全ての受験生に必須

○ 問題形式

・オフライン、回答方法は多肢選択式マークシート

修能試験の受験は義務ではないが、大学進学の可能性を拓げるためにほとんどの大学進学希望者が受験する。

○ 実施

韓国教育課程評価院が出題、問題紙と解答用紙の印刷及び配布、採点、成績通知など試験全体の管理を行い、広域市・道教育庁(日本の県教育委員会に相当)が願書の交付及び受付、問題紙及び解答用紙の運送及び保管、試験の実施、監督等の試験実施を担う。

○ 試験場

広域市・道教育監が指定した場所とされており、一般的に公立の高校が会場となることが多い。試験監督は高校の教師が行い大学教員は関わらない。

2. 修学能力試験（2）試験

○ スケジュール

8月下旬から2週間ほどで願書の交付、受付

11月に試験実施

20日間の採点期間を置き、12月上旬には成績通知

○ 成績通知

各領域・科目ごとの標準点数及び百分位、等級が提供

英語と韓国史は絶対評価で、点数により9等級に分けられる

他の科目の等級は、標準点数を基準に受験生の上位4%を1等級、次の7%を2等級のように相対評価で示され9等級に区分される

2. 修学能力試験（2）試験

表3：2020年度入学者 修学能力試験の科目別出題範囲及び配点

領域		問題数	配点	試験時間	出題範囲（選択科目）
国語		45	100	80分	話法と作文、読書と文法、文学に基づいた多様な素材文と資料を活用して出題
数学	カ型	30	100	100分	微積分Ⅱ、確立と統計、幾何とベクトル
	ナ型				数学Ⅱ、微積分Ⅰ、確立と統計
英語		45	100	75分	英語Ⅰ、英語Ⅱを基に多様な素材文と資料を活用して出題
韓国史（必須）		20	50	30分	韓国史に対する基本素養を評価するためにコア内容を中心に出題
探求 （選 択）	社会 探求	科目当 たり20	科目 当 たり 50	科目当 たり30分（最 大60分）	生活と倫理、倫理と思想、韓国地理、世界地理、東アジア史、世界史、法と政治、経済、社会・文化 9科目から最大2科目選択
	科学 探求				物理Ⅰ、化学Ⅰ、生命科学Ⅰ、地球科学Ⅰ、物理Ⅱ、化学Ⅱ、生命科学Ⅱ、地球科学Ⅱ 8科目から最大2科目選択
	職業 探求				農業理解、農業基礎技術、工業一般、基礎制度、商業経済、会計原理、海洋の理解、水産・海運産業基礎、人間発達、生活サービス産業の理解 10科目から最大2科目選択
第2外国語／漢文		科目当 たり20	科目 当 たり 50	科目当 たり40分	独語Ⅰ、仏語Ⅰ、スペイン語Ⅰ、中国語Ⅰ、日本語Ⅰ、ロシア語Ⅰ、アラビア語Ⅰ、ベトナム語Ⅰ、漢文Ⅰ 9科目から最大1科目選択

（出典）2020年度入学者大学修学能力試験施行基本計画より筆者作成。

2. 修学能力試験（3）修能試験に対する評価

○ 脱教科的な出題と厳格な実施体制

「それまでの学力考査が断片的な知識を測定し教育を暗記中心型に貶めたという批判を受けたのに対し、修能試験は、①大学修学適性を評価しようとした点、②科目を最小化し脱教科的な出題を目指した点、③高次的な思考力の測定が可能なように多様な原理を結合した内容を問題に採用しようとした点、④本をたくさん読んだ生徒が有利であるという前提を示した点大きい」

「修能試験は、管理体系の厳正さや客観式の枠内でも最大限思考力を評価する問題構成で、質的次元から見ても完成度が高い試験である。そして教育の需要者の信頼度の観点から見ても修能は標準化試験として世界最高水準を誇っている」

（クォン・オヒョン、2020:81）

○ 公平性と実施体制への信頼性

修能試験は、①同一の検査道具を用いて、②全国単位で、③同時に実施し、④標準化された点数を報告するという点を確認した上で、⑤評価しようとする能力を同一の物差しで測定している客観的な試験であると評価

（キム・ソンフン、2010:19）

2. 修学能力試験（3）修能試験に対する評価

○ 高校への負の影響

修能試験が与える短所として、①多肢選択型問題に解き方を教え込む授業、②修能中心のカリキュラム運営、③EBSとの連携による教師の役割の縮小、④私教育誘発、などを挙げている。

（キム・ジハ他、2017:56）

○ 大統領公約

修能試験は改革すべきであるとの論調は導入直後から存在し、近年ではその改革の方向性の1つとして、記述式問題の導入が提起されている。

集団カンニング事件（2004年）

試験結果に悲観した生徒の自殺（2002年）

2. 修学能力試験（3）修能試験に対する評価

○ 入試の多様化への懐疑

修能試験を重視する入試は、知識注入偏重であり競争を助長しているとの批判を受け、より多面的・総合的な観点から生徒を評価すべきであるとして、学校生活記録簿（内申書）を重視する入試が広まっていった（全入試枠の7割まで拡大）。

学校生活記録簿には資格試験や外部の学力コンクールのような学校外での学習歴は記述できないようにすることで、あくまで「高校教育で完結させる」という体裁をとった。

学校生活記録簿の作成は学校間で差がみられ、客観的な資料として位置付けができず、論述、面接、実技なども評価者と採点者の主観による評価である

（キム・シンヨン、2009:3）

チョ・グク法務部長官の子女の入試不正疑惑

→学校生活記録簿を主軸とする入試（現時点ではまだ多数）は、公平性の確保、適切な能力の判定の観点で耐えられず、相対的にそれらが確保されている修能試験への回帰が生じた。

3. 修学能力試験への記述式問題導入を 巡る議論

記述式導入の背景を教育課程改革と高校単位制の導入から抑え、記述式の抱える課題について整理する。

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(1) 2015年改訂教育課程の施行

目的:「未来社会が要求するキー・コンピテンシー(原語では「核心力量」)を涵養し、望ましい人間性を備えた創意融合型人材を養成」すること

- ①人文・社会・科学技術の基礎素養の涵養と児童・生徒個々人の適性・進路に合わせた選択学習の強化
- ②児童・生徒が参加する授業の活性化
- ③学習の過程を重視する評価の強化

適用時期:2017年度に初等学校1、2年生から、2020年度に高校3年生まで適用完了

○ 高校の教育課程の特徴

2015年度版の特徴は、必修教科の復活と、文理融合教育の強化

必修教科は、「韓国語」「数学」「英語」「韓国史」「統合社会」「統合科学」「科学探究実験」の7教科。「統合社会」は、自然及び社会現象について、時間的、空間的、社会的、倫理的な観点から総合的に理解することを目的とする文理融合型教科

→この新課程の適用に合わせて入試改革を準備していた。

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

表 4：入試制度の主な変更点

区分（実施年）	2020 年度入試	2021 年度入試(2020 年)	2022 年度入試（2021 年）
修能中心選抜比率	大学の自由	修能中心選抜の比率拡大を推奨	修能中心選抜比率 30%以上の条件を財政支援と連動（学生簿教科選抜 30%以上の大学は自由）
修能最低学力基準の活用	大学の自由（選抜方法の趣旨を考慮）	大学の自由（選抜方法の趣旨を考慮）	大学の自由（選抜方法の趣旨を考慮）
修能試験の出題範囲	国語：話法と作文、読書と文法、文学 数学（カ）：微積分□、確立と統計、幾何とベクトル 数学（ナ）：数学□、微積分□、確立と統計 英語：英語□、英語□ 韓国史：韓国史 探求：系列区分 社会：9 科目中選択 2 科学：8 科目中選択 2 職業:10 科目中選択 2 第 2 外国語／漢文：9 科目中選択 1	国語：話法と作文、読書と文法、文学、言語 数学（カ）：数学□、確立と統計、微積分 数学（ナ）：数学□、数学□、確立と統計 英語：英語□、英語□ 韓国史：韓国史 探求：系列区分 社会：9 科目中選択 2 科学：8 科目中選択 2 職業:10 科目中選択 2 第 2 外国語／漢文：9 科目中選択 1	国語（共通）：読書、文学 国語（選択）：話法と作文、言語とメディアのうち選択 1 数学（共通）：数学□、数学□ 数学（選択）：確立と統計、微積分、幾何のうち選択 1 英語：英語□、英語□ 韓国史：韓国史 探求（一般）：系列区分なく選択 2 社会：9 科目 科学：8 科目 探求（職業）：成功的な職業生活 +5 科目のうち選択 1 第 2 外国語／漢文：9 科目中選択 1

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

修能絶対評価	英語、韓国史	英語、韓国史	英語、韓国史、 <u>第2外国語／漢文</u>
修能 EBS 連携率	70% (英語一部間接連携)	70% (英語一部間接連携)	<u>50% (間接連携拡大)</u>
学校生活記録簿改善	2019年度高1から適用 (2022年度入試から反映)		
自己紹介書改善	現行書式	現行書式	<u>書式の簡素化及び改善</u>
教師推薦書	維持	維持	<u>廃止</u>
評価の透明性	多数の入学査定官評価を推奨、評価基準の公開を促す	多数の入学査定官評価を推奨、評価基準の公開 <u>拡大</u> を促す	多数の入学査定官評価を <u>義務化</u> 、評価基準の公開を促す、 <u>入試不正禁止法の整備</u>
選抜結果の公示	大学別、高校類型別合格者数を公示	大学別、高校類型別合格者数を公示	大学別、 <u>大学入試選抜種類別</u> 、高校類型別、 <u>地域別合格者数</u> を公示
面接・口述試験	大学の自由	大学の自由 (<u>最小化を推奨</u>)	大学の自由 (最小化を推奨)
論述試験	段階的廃止を推奨	段階的廃止を推奨	段階的廃止を推奨
適性考査	大学の自由 (最小化を推奨)	大学の自由 (最小化を推奨)	<u>廃止</u>

表注：下線部分は、前年度からの変更点。

(出典) 教育省 (2018) 「2022年度大学入学制度改編方案及び高校教育革新方向」から筆者一部加筆。

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(2) 高校単位制の導入

2025年に高校に単位制を導入

2021年に初等学校6年生になる児童が、高校1年生になるときに適用予定

2015年教育課程の改訂はこの高校単位制導入の布石として位置付けられ、次期2025年改訂教育課程(予定)

○ 成績評価が大幅に変わる？

単位制の導入に伴い、結果的に相対評価ができなくなるため、絶対評価への切替えがなされる見通し。

一方で、これは内申成績の弁別力が相対的に低下するということにもなる。

○ 新たな入試に向けて

「高校単位制総合推進計画」によれば、4年前ルールに基づき、2024年までに新たな制度を公表し、2028年度の入試に適用するという。この新たな入試の在り方の議論で記述式導入の模索が打ち出された。

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(3) 記述式の導入に関する議論

修能試験に代表される成績中心の大学入試により、初・中等学校では過度の点数競争が発生しており、大学の立場では大学／学科別特性に合わせた潜在力と素質を持った生徒の選抜に限界があると分析しており、修能試験の出題方式を改善し、叙述型、論述型問題の出題または、問題バンク式出題を提案

キム・ミラン(2010)

修能試験と高校の教育課程の乖離状況、多肢選択型の修能試験により、単に問題を解くだけの教育風土等を改善するための方策として修能の二元化を提示した。修能を修能Ⅰ(共通科目に関する学力評価)と修能Ⅱ(深化科目に対する学力評価)に分類し、絶対評価方法の5等級制で評価し、修能②を論述、叙述型で出題することを提案

チョン・グァンヒ他(2011)

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(3) 記述式の導入に関する議論

未来社会に対応するために思考力と創造力、問題解決力の向上のための教育と評価体制が求められると時代的な背景を説明しつつ、自由学期制の拡大、高校単位制と内申達成評価制の導入などを考慮すると、記述・論述型問題の導入可能性を綿密に模索しながら修能試験がキー・コンピテンシー評価モデルに転換できるのか、検討する必要がある

イ・ファジン他(2017)

修能 I (多肢選択式、短答式)、修能 II (記述、論述型) の二元モデル

国務総理室(内閣)傘下の経済人文社会研究会「革新的包容国家実現方案」の教育分野報告書(キム・テジュン、2020)

教育部は、新たな修能試験モデルを提案しはていないが、2020年11月の報道資料では、中長期的に大学入試に多肢選択型修能と記述・論述型修能をバランスよく活用する方法を模索することを表明

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(4) 記述式導入における論点

記述式問題の修能試験への導入において一番の障壁となるのは、採点に要する時間と採点の信頼性の確保

シ・キジャ他(2018)

記述式修能の場合、全国レベルの大規模試験に対する採点という現実的な制約と合わせ、記述型による教育課程の多様なコンピテンシーを測定することには限界がある
全国市・道教育監協議会(2019)

採点結果の一貫性、客観性等を担保しようとする、特定の機関が全ての答案を一貫的に採点しなければならないが、1つの機関が定められた期限と資源の範囲内で大規模答案を採点できるのか検討が必要

教育課程評価院(2020)

3. 修学能力試験への記述式問題導入を巡る議論

(4) 記述式導入における論点

・教育部主催「第2回大学入試政策フォーラム」(2018)

キム・ヒョンソウル・京仁地域入試所長協議会会長(キョンヒ大入試所長)

修能Ⅱの採点については、「法学適性試験(Legal Education Eligibility Test: LEEF)のように大学が直接担当すればよい」との見解を示している。

このモデルでは、韓国教育課程評価院が共通問題として記述、論述式問題を作問・出題し、各大学がその答案を独自に採点する方法とされる

多くの研究・報道が日本における記述式導入の動きを追っている。

採点・評価の公平性はクリアできるように思えないが・・・

韓国教育課程評価院は2017年に「韓国語記述式問題の自動採点プログラム」を開発し特許を保有していることが報じられており、自動採点プログラムは単語や古いレベルの答案を100%近い精度で採点できるという(詳細は不明)。

4. 今後の調査に向けて

- ・韓国では修能試験における記述式問題の導入が議論されはじめている。
 - ・これまでは、私教育費の軽減や公平性の確保、暗記中心とされる現修能試験への改革要請が改革の契機であったが、今回の改革は、高校の教育課程改革・単位制の導入が改革ドライブとなっている点で特徴的(高校教育改革主導型?)
 - ・修能試験改革の議論を追うと、既存の多肢選択式の修能試験を修能Ⅰとし、新しい記述・論述型問題から成る修能試験を修能Ⅱとする「分離モデル」が想定されていることがわかった。
 - ・個別大学における論述試験の縮小が目指されていることを考えると、マークシート方式の修能試験の成果を一定程度認めつつ、それを補完する形で、修能への記述・論述式の導入が検討されている。
- ※少々うがった見方をすれば、「分離モデル」は、たとえ採点や公平性の問題から記述式の導入が頓挫しても既存の修能試験は修能Ⅰとして残るという「保険」にも見える。

4. 今後の調査に向けて

・教育部は、大学入試制度の公正性強化案を通じて打ち出した「修能中心選考40%以上拡大」を持続的に推進するなど、「多面的評価」に付随する公平性への懸念を払しょくする方向に動いている。

・全国市・道教育監協議会、2019年末「大学入試研究団第2次研究報告書」
報告書に盛り込まれた大学入試改編案の核心は、修能試験を絶対評価に切り替え、
選抜ではなく資格試験として活用するというもの

ということで、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見て、次年度下記機関へのヒアリング調査を行う。

参考文献

- イ・ファジン他(2017)『未来社会変化に対比した政策アジェンダの発掘と中長期課題の発掘』韓国教育開発院。
- キム・ジハ他(2017)『未来志向的の大学入試改善方案研究』韓国教育開発院。
- キム・シンヨン(2009)「大学修学能力試験の改善方案探索」『教育評価研究』22(1)、1-27頁。
- キム・ソンフン(2010)「妥当化概念モデルを利用した大学修学能力試験体制の診断」『教育評価研究』23(1)、1-27頁。
- キム・テジュン(2020)『革新的包容国家実現方案-教育分野を中心に』。
- キム・ミラン(2010)『外国の大学入試制度』KEDI Position Paper第7巻第9号。
- 教育課程評価院(2020)『大学修学能力試験の成果と発展方向』KICE Position Paper第12巻第5号。
- クォン・オヒョン(2020)「高校単位制導入のための大学入試制度の改編方向」韓国教育課程評価院『高校単位制小規模政策セミナー資料集』55-85頁。
- シ・キジャ他(2018)『世界各国の大学入試制度研究』韓国教育開発評価院。
- 全国市・道教育監協議会(2019)『未来社会が要求する大学入試制度改善方案研究 第2次報告書』。
- チョン・グァンヒ他(2011)『「高校-大学連携」のための大学入試選考研究(VIII)』韓国教育開発院。
- ナム・ミョンホ他(2015)『大学修学能力試験10年史(Ⅰ)』韓国教育課程評価院